

SIU2009 上海 プログラム委員会報告 (2008/05/18 8:30-12:00)(於 Orlando Rosen Centre Hotel, Salon 6 ) (文責 中川昌之)

参加者は Richard William(議長), Valerie Gillet (秘書)、Mostafa Elhilali (カナダ)、Joachim Thuroff (独), Arturo Mendosa Valdes (アルゼンチン), Tom Lue (サンフランシスコ), Jacob Ramon(イスラエル), Chris Heyns(南ア), Hassan Abol-Enein(エジプト), Indebir Gill (クリーブランド), Luc Valiquette (カナダ)、Werner Schaefer (ピッツバーグ)と私で、途中から参加の委員や退席する人がいました。(シンガポールの Chris Chang は欠席でした。)以下、少し聞き間違いもあるかもしれませんが、概要をご報告申し上げます。

メンバー紹介)

まず会に先立ち、各メンバーの自己紹介がありました。私は村井先生の代理出席であることを紹介いたしました。

議事)

資料に従って討論が進行されました。

まず各セッションにおいて 1) 誰が司会 (modulator) や発表をするか、2) どのようなテーマで、3) どのような形式 (教育講演あるいはパネルディスカッションか) で発表するか、が討論されました。また 4) 資料に記載された以外のテーマで pick up した方がよいテーマがないか討論されました。各セッションで提案された項目がかなり多いのですが、これは全体像をできてから後で適当に修正・削除するということでした。

「Andrology」のセッションに関して、各委員からすでに提案されている演者 (or modulator) でよいかを確認され、この分野に関しては主にサンフランシスコの Tom Lue が意見を述べていました。その際に、議長より上海で開催されるので中国人の委員を 3 名ほど (?) 入れるという話がありましたが、今回は四川の地震の影響で出席できなかったそうです。この分野では Premature ejaculation について演者が決まっていないが誰がよいか検討され、オーストラリアの Kris がいいという意見が出されました。その他、Peyronie disease は Yacchia (Israel), Vardi (Israel), Goldstein (Boston) などが演者の候補者として推薦されました。Surgical Treatment では prosthesis 手術を多く経験している Voila などの名前が挙がりました。さらに PDE5 阻害剤についてのセッションは、1) overview, 2) mechanism of action, 3) clinical aspect, 4) future に分けて討論してはという意見が出されました。演者 (あるいは modulator) としては Sotomayor (メキシコ) が候補者として推薦されました。その他のトピックスとして、ホルモン療法を加えることが提案されました。Post prostatectomy ED のついてはイタリアの Mironi が演者に推薦されました。次

に Estrogen deficiency (PADAM) と metabolic syndrome をどう区別して取り扱うかが討論され、後者を前者に入れて討論してはという意見が出されました。ED の発生機構については Tom Lue, Becher, Stir などの演者が推薦されました。そこで Tom Lue から韓国にも Prosthesis 手術を多くやっている先生がいることが報告され、議長が調べてみることにになりました。次に、Infertility に関して遺伝的な話題を提供してくれる演者はいないかということになり、日本にはどうかと言われ奥山先生や並木先生のことが一瞬思い浮かべましたが、best の選択がわかりませんでしたので返事を控えました。手術に関して、精管再建手術についての演者選択の議論がされている途中で、今回は中国開催であるので、中国で問題となっている「birth control method」もテーマにして中国人の演者に話してもらおうということになりました。Infertility とは逆のテーマとなりますが、企画として考えてみることにとなりました。

次に「Basic Science」のセッションで、tissue engineering の話題を Anthony Atala にしてもらうことになりましたが、Tom Lue から北京の脊損研究センターにも神経再生手術(神経移植術?)をやっている人(Dr. Liao or Dr. Linin)がいるので、演者としてはどうかという提案がなされました。

次に「膀胱癌以外の膀胱疾患」に関するセッションでは、膀胱の fistula surgery の surgical tip を取り上げようということになりました。ここで、関連する話題として資料の最後のところにある「尿失禁」のセッションについても検討されました。特に女性の腹圧性尿失禁の評価法、治療法(手術や薬物療法)に関して modulator として Dr. Romano がいいだろうということになりました。またこの分野に詳しい婦人科医を呼んではという意見が出て、反対意見もありましたが検討しようということになりました。またこの分野では OAB の話題が関連するが、企業色が強いのでセッションは設定するが、あまり企業色でない形でやろうということになりました。具体的には、保存的治療(骨盤底筋群訓練)、neuromodulation(神経刺激療法)、薬物療法(Botox や抗コリン剤など)などの話題を企画してはという意見が出されました。

次に「BPH」のセッションについて検討されました。ここで、case presentation 形式はどうか検討され、75g ほどの平均的な BPH とごく初期の症例などを出してはと言われましたが、case presentation 形式の欠点として、演者の主張が一般化されやすく、国によってもガイドライン内容が違っていたりしてこの形式は適当ではないだろうということになりました。

演者として Chris Chappel や Mark Drake(英)の名前が挙がりました。このセッションの名称も BPH とするのか、もっと広く LUTS として BPH を含むのかも検討されましたが、委員から適当な名称が出されませんでしたので、どうするかは未定です。ともかく BPH のセ

セッションでは内科的治療（薬物療法）や外科治療（レーザー手術も含め）をテーマにし、前者では患者の適応をどうするか、どのくらいの期間投与するのかをパネル形式で討論してはという意見が出されました。後者については、Ablation vs Excision で討論してはという意見が出されました。演者として、Marberger(Vienna)が推薦されました。その他の治療法として、Phytotherapy のことが提案されましたが、EBM がないため、Alternatives(Other therapy)としてまとめてやってはということになり、演者（Modulator）として Jose Ropes(Argentina)が推薦されました。

次に「Education/Technology」のセッションでは、Surgical simulation のことが討論され、イスラエルの Ramon 委員からイスラエルには Simulation Urological Training をやっている施設があるという意見が出され、そこの先生に話をしてもらってはという意見が出されました。

次に「Imaging」のセッションでは、「何が最も新しいの技術なのか？」「何をわれわれは必要としているのか？」というテーマで企画してはという提案が議長からなされました。近年、CT の 3 次元・4 次元（？）画像や PET 画像などの進歩があり、これらに詳しい放射線科医に講演してもらってはという提案がなされました。また手術との関連する画像（術前あるいは術中診断）の話題がよいのではということになり、ではそのタイトルをどうするかが検討され、腹腔鏡手術を多くしている Gill が「Intraoperative Surgical Navigation」というテーマを提案し、京都府立医大の浮村オサム先生が演者に推薦されました。

次に「Infection」のセッションでは、議長から「いろいろ感染症はあるが、今、何が各国で問題か？」と尋ねられ、結核の再流行や薬剤（抗菌剤）耐性であろうということになり、尿路結核の話題がよいとなりました。そこで、村井先生が推薦されましたインドの Saaidharan 先生に話をしてもらおうということになりました。その他に、結核に関してはスウェーデン Lund 大学の Wult 先生が詳しいということになり、演者の候補になりました。前立腺炎も入れてはという意見が出ましたが、この感染症のセッションにはふさわしくなく、今回は結核中心でやろうということになりました。その他、Hydatid disease (包虫症)を教育コースでやってはという提案がなされました。

次に「Bladder Cancer」のセッションでは、リンパ節郭清術のことをテーマにしてはという意見が議長から出され、エジプトの Hassan Abol-Enein 委員から Ghoneim 先生（マンスーラ大学）が膀胱癌に限らず、泌尿器癌のすべてのリンパ節郭清術の話ができると推薦されました。

この辺で、12 時近くになりましたので、私は次の AUA/JUA leaders meeting に出席のた

め退座いたしました。詳細は後日、まとめの資料が村井先生の方に送られてくると思いますが。

以上、私が出席できた部分のプログラム委員会の概要についてご報告申し上げます。